



## 1 補助事業の概要

### (1) 事業目的及び実施内容

目的：孤独生活をしている高齢者の精神的および肉体的康等の生活改善

内容：IT技術に明るくない高齢者向けに、紙等のおなじみのアナログデバイスとIoT機器等のスマートデバイスを融合させて「親しみやすい・使いやすい・継続しやすい」、新たなコミュニケーションサービスを紹介する。高齢者は家族や医師等とSNS等を通じて接触・情報交換・会話する機会を得ることで、孤独感や孤立感を減らし、一人暮らしや老人ホームに住む高齢者の生活の質を高めることの手助けとなる。

### (2) 開発した製品・サービスの概要

家族はLINEやインスタ、SNSに毎日親しんでいるのですが、高齢者はそれをほとんど使わない、使うことが難しいのが現状である。これは、「コミュニケーションの機会を逃している状況」であり、社会的孤立は、「生活の質を低下」させ、肉体的・精神的な「健康衰退」の原因となる。

そこで、我々は音声対話技術を活用した、「新たなコミュニケーションサービス」で、この課題を解決できないかと考えた。

高齢者にも「親しみやすい・使いやすい・継続しやすい」スマートデバイス（5Gを利用したスマートランプのデモ機）を制作した。また、「音声対話クラウドプラットフォーム」のベータ版も開発した。

今後、このプラットフォームを使って、会話のインタラクション、行動生成、キャラクターの動作や表情まで、ノーコードでスムーズに制御可能するようなプラットフォームとする。

### (3) 5Gの活用ポイント

#### ※5Gの必要性：

このデバイスはクラウドに接続されたスマートデバイスであり、音声認識、自然言語処理、写真およびビデオ処理がクラウドで実行されます。

また、リアルタイム通信デバイスであるため、遅延は対話の品質に直接影響する。よって、デバイスとクラウドの間でオーディオおよびビデオデータを転送するには、高帯域幅、低遅延の通信が必要不可欠。今後、VR/ARのために、低遅

延・広帯域が必要で、また、低遅延なので、健康モニタリングウェアラブルデバイスやスマートホーム連携に対応可能。

※なぜ5GがWi-Fiよりも良いのか？

Wi-Fi対応デバイスについては、ユーザーが最初にデバイスの電源を入れて使い始めるときに設定・セットアップをする必要がある。

高齢者向けのデバイスの場合、これらの設定作業は、デバイスを普及させるためには大きな障害となる。5G対応のデバイスであれば、デバイスを購入した際、出荷前に家族等が事前にオンラインでデバイスをセットアップでき、デバイスの電源を入れた直後にインターネットへの接続が開始され、利用できる状態になる。つまり、5Gをデバイスに搭載することにより、追加のWiFi等の通信機器や事前のセットアップや設定なしでデバイスの提供が可能となり、高齢者がすぐに使える。

(SIMカードがあることで、セットアップが不要・開封して電源を入れるだけ)

2 今後の事業化に向けた取り組みについて

- ・2022年 4月～5月：「利用方法1」（会話音声データのやりとり）  
実証実験高齢者施設「六甲の館」、高石市健幸ラボ（個人利用者）
- ・2022年 5月～6月：テスト結果によるデザイン調整
- ・2022年 7月～8月：「利用方法1」の追加テスト
- ・2022年 9月～12月：資金調達/パートナー企業獲得  
(警備会社、保険会社との連携)